

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

JavaOneディベロッパーカンファレンスで発表されたJava5つの新戦略

5月29日、米国サンフランシスコ市内のモスコニーコンベンションセンターで、ジャヴァソフトとサン・マイクロシステムズが主催する「JavaOneディベロッパーカンファレンス」が開催された。初日のキーノートスピーチに立ったジャヴァソフト社社長のAlan Baratz氏は、JavaOSをはじめとする5つの戦略を発表した。（鷲谷好輝）

この日、Alan Baratz氏が発表したのは、次の5つである。

- JavaOS
- HotJava New version RoadMap
- JavaBeans
- Java Developer's Kit (JDK) Enhancement
- Java Developer Service

最大の注目は、これまでKonaというコードネームで知られていたJavaオペレーティングシステムがJavaOSとして正式に発表されたことだろう。JavaOSは、512KバイトのROMと128KバイトのRAMで動作で

きるように、オリジナルのJavaをコンパクトにまとめた高速バージョンである。

また、これまでNetscape Navigatorを拡張したブラウザであったHotJavaを、新たにクラスライブラリーの統合化が可能なフレームワークとするという方針も発表された。

新しいHotJavaでは、開発者が独自に書き起こしたクラスライブラリーを、ネットワーク経由でHotJavaに追加でき、環境を自由にカスタマイズできるようにするというものだ。WWWのプロトコルであるhttpdもライブラリーとなるので、ブラウザ機能はHotJavaが持つ1つのカスタマイズ形態にすぎなくなる。

これに伴って開発サポート・支援ツール

としてアプレットやアプリケーションのプログラミングに再利用できるオープンコンポーネント「JavaBeansアーキテクチャー」の提供や、JDK(Java Developer Kit)を拡張した国際版の作成、そしてJava開発者向けのオンラインサポートサービスも7月31日から開始すると発表した。今後は携帯電話で有名なノキアなど、さまざまなものにJavaが組み込まれるという。

カンファレンス会場には、日本企業の出展ブースも多く、インターネットのみならずJavaへの意欲的な取り組みを進めているジャストシステムやNTTデータ通信が出展していた。また、Mitsubishi Electric Corp. (米三菱電機)のブースでは、Java端末「MonAMI」を展示して注目を集めていた。

Javaの開発環境としては、シマンテック社が同社のC++開発ツールを継承したCafeと呼ばれる開発環境をデモンストレーションしていたほか、マイクロソフト社でも、COM (Component Object Model) というJavaの統合環境についてのデモを行っていた。

このJavaOneは、Javaの開発元がJavaへの参入を狙う企業を集めた初の本格的なディベロッパーカンファレンスであるが、インターネット上でのJavaの地位を決定づけるに十分な内容のものだったと言えるだろう。

「カンタン接続」のためのハードウェア ゲーム機や電子文具もWWWを目指す

パソコンの新製品はもとより、今やゲーム機や電子文具までがワールドワイドウェブへのアクセスを目指している。「インターネット家電」という言葉でも表されるこれらの製品は、いかに「簡単」に情報を受信するかを追求しているが、その利用はインターネットにどんな影響を与えるのだろうか。(山田祥平)

ワールド・ワイド・ウェブのブームに火が付き、一般誌で紹介されはじめた頃、カーネギーメロン大学の自動販売機のコーラの在庫状況がインターネット経由で見られるとか、どこぞのオフィスのコーヒーマーカーのポットにあとどのくらいコーヒーが残っているかが24時間カメラで映し出されるといった記事をあちこちで見たのを覚えている。あれからそんなに時間がたったわけではないのに、インターネットの世界は様変わりし、びっくりするようなことが毎日のように起きている。

タッチ式パソコンに電子手帳 「やさしい」端末が続々登場

自動販売機やコーヒーマーカーは情報を公開する側の話だが、最近目につくのは、情報を受け取る側の状況が大きく変わってきたことだ。ピピンについてセガサターン、そして、電子手帳のザウルスまでがインターネットにつながるようになった。パソコンはパソコンで、Panasonicの指先でハイパーテキストをめくれるタッチウディが発売間近だったり、TAを標準装備し、インターネットプロバイダーはもちろん、NTTとのISDN回線契約までもめんどろを見てくれるエプソンダイレクトのインターネット対応パソコン、そして、アップルはアップルでスターターキット添付のパソコンと、とにかく、何でも「インターネット対応」だ。

パソコン通信サービスの雄、ニフティサーブもいよいよ本格的なインターネット接続サ

ービスを始めた。HyperRAODというアクセスポイントができ、DNSのアドレスが書いてあったのでWindows95のダイヤルアップネットワークでつないでみたら、あっさりとTCP/IP接続でインターネットに直結した。これじゃ、普通のプロバイダーだ。試しにTELNETでニフティサーブに入ろうとしたら二重ログインでシャットアウト。ニフティサーブはニフティマネジャーでどうぞということらしい。

どっちにしても、つなぐことがどんどんやさしくなっている。とりあえず「インターネット対応」ということにすると、それだけでモノの売れ行きがずいぶん違うんだそう。書籍や一般雑誌の特集タイトルなんかでも同じだ。ウ・マ・イの順でトレンドが推移してきているとか。つまり、ウィンドウズ、マルチメディア、インターネットである。

テレビに映るホームページ ブラウザの制約が増える

今、一般の人々が認識しているインターネットは、すなわちワールド・ワイド・ウェブである。それだけだと思っている人もいっぱいいるんだろう。だから、ウェブのサービスを利用できなければ、彼らにとってはインターネットではない。

そして、あの解像度の荒いテレビの画面や、せせこましい液晶画面でホームページをめくろうとす

る。あげくの果てには、狭い画面専用のホームページまでが出てこようとしている。どうしてそこまでしてhttpなの?と、ちょっとした疑問を感じてしまう。HTMLというのは、画面の解像度や手持ちのフォントの種類にできるだけ左右されなくて文書構造を表現するためのものではなかったのだろうか。だからこそ、今のワープロソフトあたりと比べても、かなり貧弱な表現力でも納得してきたし、それはそれでいいのだと思ってきた。もっともActiveXのふるまいやNetscape Navigator固有の機能を使ったページを見ていると、ブラウザの動いている環境を限定するような気配を感じるから、やっていることは似たようなものかもしれない。

ハイパーリンクの向こうは 固有の機能ではしぼられない

ウェブの資産は偉大である。世界中に散在する膨大な量のハイパーテキストは、これからインターネットの世界に入ってくる人たちにも平等に開かれるべきではある。それはわかっている。けれども、苦労知らずで「カンタン」にインターネットにつながった人たちが、狭い画面向けに作られた、いわば温室のようなページを一步出て、ハイパーリンクの先にたどりついたとき、ブラウザから思い切りはみ出したページを見て彼らはインターネットに何を感じるのだろうか。それがちょっと心配ではある。



セガサターンインターネットとカラーザウルス。どちらも専用のWWWブラウザを搭載している。

Publishing アcroバット 3.0 世界同時発表 日本語にも対応

アドビシステムズは、インターネットなどの電子メディアでドキュメントを共有する技術 Adobe Acrobat (アcroバット) の最新版3.0を発表した。これまで英語しか対応していなかったが、最新版では、日本語、中国語、韓国語などより多くの言語が使用できるようになった。アcroバットで用いられるPDF (Portable Document Format) 形式のドキュメントは、ワープロソフトやスプレッドシートなどさまざまなアプリケーションからプリンターデバイスの代わりにAcrobat Distillerを指定すると作成される。このファイルを使えば、さまざまなアプリケーションで作成されたデータが、そのレイアウトデザインを崩すことなく、インターネットのWWWページ上に再現できるようになる。さらにAcrobatでは



アcroバット3.0を使ったWWWページ

それらのデータに動画の再生やWWWへのリンクなどの機能も付加できる。

Acrobatを用いたページを見るための専用ビューアー「Acrobat Reader」は、アドビシステムズのサイトなどで無償配布されている。新バージョンはNetscape Navigatorのプラグインとして利用できるが、同社はマイクロソフトのInternet Explorer3.0をはじめとするActiveXの制御もサポートすると発表している。

URL <http://www.adobe.com/acrobat/>

Technology アプリックスが インターネット家電 専用ソフトを開発

アプリックスは、AT互換機のアーキテクチャー上で、OSがなくてもインターネットを利用できる専用ソフト「WWW/386」を開発した。先頃同社がソフトを開発して発売された「SEGA SATURN INTERNET」の技術をベースにしたもので、WWWブラウジングやプロバイダーへのアクセス機能をもつ基本プログラム。テレビに設置するセットボックスのような1Mバイト足らずのメモリ環境でも動作するので、カードPC用やAT互換機用の部品を使ってネットワークコンピュータやインターネットテレビといった新しい端末の開発が容易にできるようになる。このソフトは今後、国内外の大手パソコンメーカーや家電メーカーにOEM販売する計画。

URL <http://www.aplix.co.jp/>

Product ジェネラルマジックが 携帯端末Magic Cap用の インターネットソフト発売

米国ジェネラルマジック社は、携帯型Magic Cap コミュニケーター用のWWWブラウザ「Presto! Links 1.0」と電子メールソフト「Presto! Mail 1.5」を発売する。両ソフトとも米国アクティブペーパー社からライセンスを取得したもので、ソニーの「Magic Link」やモトローラの「Envoy Wireless Communicator」などの上で動作する。このうち電子メールソフトでは、インターネットメールの送受信ができるほか、同ソフトを搭載した他のMagic Cap コミュニケーターとの間で、音声やアニメーション付きのメッセージを送受信できる。価格はセットで約50ドルから70ドルの予定。

問い合わせ ジェネラルマジック東京事務所
FAX 03-5821-6077

URL <http://www.genmagic.com/>

business オラクル社が NCのソフトを提供する 子会社を設立

オラクルは、インターネット用端末のプラットフォームであるネットワークコンピュータ(NC)の具体的な事業を全面的に手がける子会社「ネットワークコンピュータ」を全額出資で設立した。NCに必要なソフトウェアとサポートサービスを開発・販売していくもので、社長にはオラクルの製品・プラットフォーム技術部門担当の上席副社長を務めたジェリー・ペカー博士が就任した。また、同時にオラクルは、アップル、IBM、ネットスケープ、サン・マイクロシステムズとともにNC製品のガイドラインを発表し、このガイドラインにもとづいた「Oracle NC System Software Suite」を製品化した。赤井電気、船井電機、オリベッティなどが同製品をライセンス生産する計画。

URL <http://www.oracle.com/>

Product Javaベースの 統合アプリケーション 米国コーレル社が開発

能率向上アプリケーションやマルチメディアソフトを開発・販売する米国コーレル社は、Java技術に基づいた統合オフィスアプリケーションの開発を進めており、今年末にベータ版を公開する予定。これは「Corel WordPerfect」や「Corel Quattro Pro」などの能率向上アプリケーションのJava版を新しいGUIで統合するもので、Java技術のクロスプラットフォーム性を活用している。また、他のアプリケーションをシームレスに統合することもでき、スプレッドシートやチャートを挿入して複雑な文書を作る時間が大幅に短縮できる。モジュール構成になっており、自由に拡張できるしくみで、追加機能は必要に応じてダウンロードする。

URL <http://www.corel.com/products/>

Provider 衛星を利用した
専用線接続サービスを
JSATが10月から開始

日本サテライトシステムズ(JSAT)は96年10月から、衛星によるインターネット専用線接続サービスを試験的に始めると発表した。このサービスは同社の通信衛星「JCSAT-2」を利用してプロバイダーから発したIPパケットを遠隔地に送信し、専用の受信設備を用意したユーザーに送るといっ片方向の通信サービス。電話線がなくてもインターネットが使えるようになる。利用料金は、送信する側、受信する側によってそれぞれ違う。1.5Mbpsの送信局が月額466万1000円、受信局が月額15万1000円になる予定。

問い合わせ (株)日本サテライトシステムズ
TEL 03-5511-7770

URL <http://www.ijnet.or.jp/JSAT/>
電子メール internet-info@jcsat.co.jp

business 電通とソフトバンクが
インターネット広告の
専門会社を設立

電通とソフトバンクはインターネット広告専門会社「株式会社サイバー・コミュニケーションズ」を7月1日に設立する。資本金は1億円。出資比率は電通が51%、ソフトバンクが49%。社長には電通東京本社第17営業局の番匠博隆氏が就任する。新会社は、内外のインターネットサイトの広告スペースを購入し、電通などの広告会社を通じて販売するほか、「ソフトバンク・インタラクティブ・マーケティング社」(米国)と業務提携して米国におけるネット広告ノウハウを持ち込み、双方向で情報をやり取りできる「インタラクティブ・マーケティング」を提案していく。売上目標は、初年度(平成8年度)が4億円、2000年には100億円を目指す。

Provider プロバイダーのサービス強化が活発に
256Kbpsでのダイヤルアップも開始

ネットワークサービスプロバイダーは着実に増えている中で、既存のプロバイダーが新サービスを開始している。一方で従来からのサービスを停止するところも始めているようだ。

IJは「双方向型ダイヤルアップ接続サービス」という新サービスを始めた。これは、従来のネットワーク型ダイヤルアップサービスの利用者がWWWサーバーやFTPサーバーを設置できるようにし、さらに外部からアクセスがあった場合は、その都度IJからダイヤルアップ側の端末を呼び出してくれるというもの。これによって専用線につながっていない端末に外部からアクセスすることが可能になる。

リムネットは、ISDNで同期64Kbps、128Kbps、256Kbpsの接続サービスを

6月28日から開始すると発表した。従来のアナログ非同期サービスに比べ128Kbpsは2倍、256Kbpsは4倍の利用料がかかる。

また、今まで法人向けサービスを中心に展開してきたSPINインターネットサービスは個人向けサービスを強化。専用線サービスに加え、ダイヤルアップ接続サービスを開始する。

プロバイダー事業者が増加する一方でサービスを停止する会社も出てきた。サービスを停止したのは北海道の「ネットボード北海道」と東京都の「PICnet」。すでに会員募集は中止しているので注意していただきたい。

*問い合わせは424ページからの「料金一覧」をご覧ください。

business ニュースサービスの
インディビジュアルが
フリーローダーを買収

インターネットでニュースサービスを提供する米国インディビジュアル社が、WWW情報をオフラインで表示するソフトを開発するフリーローダー社を買収したと発表した。フリーローダー社が提供するFree Loaderというソフトは、複数のホームページの情報を自動的に取得して、Netscape Navigatorで後でまとめて表示できるようにするだけでなく、サーバーが指定したページをクライアント側に自動的に送る機能や、スクリーンセーバーの機能もある。インディビジュアル社はホームページで提供している『NewsPage』や、企業向けに提供している『First!』というニュースサービスなどでこの技術を利用していききたいとしている。

URL <http://www.individual.com/>
URL <http://www.freeloder.com/>

Service NECのサイバープラザで
PC-VANとmesh会員向け
有料コンテンツ提供

NECは、PC-VANとmeshの個人会員を対象に、同社のWWWサービス「The Cyber Plaza」上で有料のコンテンツサービスを開始した。PC-VANおよびmeshの会員を管理する課金システムとNetscapeコマースサーバーを用いて提供する。有料サービスといっても月額契約やファイル単位購入などさまざまな課金タイプがあり、インターネットでは個人認証などの問題からこうしたサービスを提供することは難しいのが現状だが、このサービスでは利用者をPC-VANとmeshの会員に限定し、1つのIDで複数のサービスを管理する。現在トライアル中で、7月以降に本格運用する予定。

問い合わせ NEC Cyber Plaza事務局
TEL 03-3798-6185

URL <http://www.cplaza.or.jp/>

Service

インターネットカラオケ 住友商事が6月に開始 ソフトはオンライン販売

住友商事は6月から同社が運営するClubWebというWWWサーバーにおいて、インターネットカラオケサービス「/SLASH」を開始した。曲データはサーバーからダウンロードし、専用ソフトで再生するもので、収録曲はサービス開始当初約1,000曲。ユーザーからのリクエストを受け付け、リクエストの上位曲をはじめ月間100曲程度追加していく。再生ソフトが入ったCD-ROMパッケージは300曲まで読み込める「サービス利用権」を含み、発売記念特価6,000円でClubWebのオンラインショッピングで販売している。1年間300曲の料金をまとめて徴収することで課金コストを抑えた。

問い合わせ 住友商事(株) 情報通信事業部
FAX03-3296-7329
URL <http://www.clubweb.or.jp/>

Education

学校間交流プロジェクト 「メディアキッズ」の コンソーシアム始動

アップルコンピュータと国際大学グローバルコミュニケーションセンターが主催し、学校間交流をインターネット上で行う「メディアキッズ」の運営母体「メディアキッズ・コンソーシアム」が正式に発足した。これまでは全国14の小中学校を結び、子供たちの共同学習の場を提供してきたが、今回100校限定で新たに特別プログラムを配布した。

URL <http://www.mediakids.or.jp/>



プロジェクト開始から2年たつメディアキッズ

Technology

キーワード連鎖できる ホームページ検索機能 松下電器が開発

松下電器産業は、ホームページを効率よく検索できるホームページ知的検索システムを開発した。このシステムは、ネットワークの込み具合などの状況を判断しながら、世界中のホームページから情報を効率よく自動収集するネットワークロボット機能と、自然言語処理技術を活用した知的検索処理機能、全文検索エンジンを装備した高速検索機能により構成されている。検索キーワードに適合したページ情報を適合度順に要約して一覧表示でき、さらに検索を継続する場合は、システムから提示される関連キーワードを選択して、次々と連鎖的に検索を進めることができる。この技術を応用した地域情報検索サービスが次のサイトでオープンしている。

URL <http://www.nippon-net.or.jp/>

Service

WWW ページの情報を FAX で取り出すシステム インテックが開発

インテックは、ホームページ上の情報をFAXで提供するシステム「FaxROBO-Web」を開発、販売を開始した。利用者は「FaxROBO-Web」に電話し、音声ガイドランスに従ってページにあらかじめ付けられたFAX-ID (Unique-ID) をプッシュボタンで指定するだけで、インターネットプロバイダーに加入することなくホームページの情報を取り出すことができる。また、リンク先のFAX-ID一覧を出力することもできる。同社では現在、デモンストレーションとしてインテックのホームページなどが取り出せるサービスを始めている。

FAX 番号は0764-44-3680

問い合わせ (株)インテック 首都圏本部東京第五営業所 TEL 03-3292-2940

URL <http://www.intec.co.jp/>

Service

電子メールの文を 電話で読み上げる キヤノン「きこめ〜る」

キヤノンは、電子メールの本文を電話で聞くことができるシステム「きこめ〜る」を開発した。キヤノングループのインターネットプロバイダーであるファストネットが年内に本格運用を開始する。約10万語のアクセント付き辞書を搭載した「日本語音声規則合成システム」を使用し、文章の読み方やアクセントを音声データに変換する。ユーザーはプッシュホンのキーでIDや暗証番号の入力と読み上げ指示を行うもので、電話があればどこからでも自分宛のメールの内容を確認できるようになる。キヤノンではこのシステムを他の企業にも販売していく予定。

問い合わせ キヤノン(株)CMプロジェクト
TEL 044-549-5111
ファストネット(株)
TEL 03-3863-7311

Service

大蔵省が日英両語で ホームページ開設 住専問題の情報も提供

5月17日、大蔵省のホームページが開設された。インターネットを使うことで、大蔵行政に関する情報を内外に公開して幅広い関心と理解を得るのがねらい。また、住専問題などの特に注目度の高いテーマについては特集を組んで解説する。開設から5月末までに、すでに約5万件のアクセスがあったという。電子メールでの意見も受け付けている。

URL <http://www.mof.go.jp/index.htm>



住専問題もQ&A形式で解説

Service

同義語検索もできる ディレクトリーサービス リクルートの「WebdeW」

リクルートは6月11日からディレクトリーサービス「WebdeW」(ウェブデュー)を始めた。キーワード検索に同義語辞書を採用して関連語との複合検索ができるほか、検索結果に要約情報を加えてわかりやすく表示する。また、会員登録をして検索条件を登録しておく、検索結果をメールで配信するサービスもある。サービス開始時5,200件の情報掲載件数は毎日更新していく。

URL <http://webdeW.rnet.or.jp/>



代理検索サービスも提供

Service

3D空間で日本語チャット WARLDS CHAT/Jが サービス開始

インターネット上の3次元仮想空間でチャットができる「WARLDS CHAT/J」が凸版印刷と日商岩井によるglobewarpサービスの第一弾としてスタートした。米国ワールズ社が開発したサービスの日本語版で、ネットワーク上の自分の分身(アバター)を選んで仮想の宇宙ステーション内を歩き回りながら、最大6人までとチャットが楽しめる。専用ブラウザが必要だが、サービス、ソフトとも無料。

URL <http://www.globewarp.or.jp/>



日本語版独自のアバターもある

Product

アリステクノロジーズ 75か国語対応の WWWブラウザ発売

カナダのアリステクノロジーズ社は、世界75か国語をサポートする多言語WWWブラウザ「Tango 1.5」のWindows95版を7月から世界同時発売する。このブラウザは日本語版など各国仕様版を持たないユニバーサルソフトで75か国語の表示に対応できる。さらにユーザーインターフェイスや、オンラインヘルプ、ハイパーリンクボタンも16か国語を選択できるため、各国語で書かれたサイトへ自分の使いたい言語でアクセスできるのが特徴。価格はブラウザのみ6,500円、スターターキットは9,000円を予定している。日本での販売ルートは未定。

電子メール infojp@alis.com

URL <http://www.alis.com/>

Product

AIXの接続券付き 初心者向けソフトパック 「インターネットレスキュー」

初心者でも簡単にインターネットへ接続できるソフト「インターネットレスキュー」が、アスキー・サムシンググッドから発売された。このソフトでは、「Windows 95用PPPウィザード」を搭載しているため、画面に表示された質問に答えていくだけで誰でも簡単にインターネットへ接続できるようにしている。また、WWWブラウザ「Netscape Navigator2.01(日本語版)」やインターネットの学習用ソフト、アスキー・インターネット接続サービス(AIX)の加入料と1時間分の接続料が無料になるキーワードを付属した「インターネットハンドブック」などが入っている。価格は9,800円。

問い合わせ (株)アスキー・サムシンググッド
TEL 03-5351-8080

Product

キヤノンが57万画素の デジタルカメラ 「PowerShot600」発売

キヤノンは、普及型としては業界最高の57万画素CCDを搭載した超高画質デジタルカメラ「PowerShot600」を7月上旬から発売する。カメラを載せるだけでパソコンへ接続できる「カメラステーションCS-36」などのアクセサリや、TWAINドライバ、Adobe Photoshopプラグインモジュールなどのソフトを標準で添付しており、オプション類を買い足すことなくパソコンへ画像を取り込める。JPEG画像の圧縮率はファイン、ノーマル、エコノミーの3モードが選択できる。内蔵メモリーのほか、PCMCIAインターフェイスを装備し、PCカードに最大約5500枚の記録ができる。価格は128,000円。

問い合わせ キヤノン販売(株)システムサポートセンター
TEL 043-211-9556

Product

ネットワーク版 電子辞書システム 岩波書店など3社から

岩波書店と大日本印刷、インニューシテムの3社は、ネットワーク上に辞書知識ベースを構築できる辞書サーバーシステム「ネットワークこととい」を開発、発売した。このシステムは、「広辞苑CD-ROM版」などEPWING規約の電子辞書をネットワーク上で検索できるようにするもので、複数のCD-ROM辞書を同時かつ統合的に検索できる。検索文字列の部分一致指定や論理式による条件指定、全文検索などの機能をもつ。サーバーとクライアントのOSの組み合わせは自由。価格は5ユーザーの小規模サイト用が広辞苑CD-ROM版とセットで104,000円、大規模サイト用は192,000円。

問い合わせ (株)岩波書店 ニューメディア開発室
TEL 03-5210-4080

Product

ホームページ用 音楽再生ソフト ヤマハの「MIDPLUG」

ヤマハは、MIDIファイルを利用してホームページ上で音楽を再生できるソフト「MIDPLUG」(ミッドプラグ)を開発、同社のホームページ上で試用版の無償配布を開始した。これはソフトシンセサイザーによる電子音源機能と音楽データ再生機能を併せもったソフトで、「Netscape Navigator」のプラグインとして使用する。再生する音声ファイルはMIDI形式で、よく利用されるWAVE形式に比べてデータ量が数十分の1になる。また、ソフトシンセサイザー機能があるのでMIDI用の拡張サウンドボードがなくても音楽を再生することができる。ホームページの制作者は、再生させたいデータを指定するだけで、意図した所で音楽が再生されるホームページが作成できる。

URL <http://www.yamaha.co.jp/xg/>

Product

Windows95に対応した 翻訳機能付パッケージ 「WorldNet/EJ95」

高電社は、Windows95対応の英日翻訳機能付きインターネット通信パッケージ「WorldNet/EJ95」を発売した。昨年10月に発売した「WorldNet/EJ」をバージョンアップしたもので、今回はWWWブラウザとして「Netscape Navigator 2.01 (日本語版)」のほか、マイクロソフトの「Internet Explorer 2.0 (日本語版)」も搭載した。また、英日翻訳機能でも、従来の範囲指定翻訳機能に加え、ページのイメージはそのままに日本語に翻訳して表示できる機能や、インターネット用専門用語辞書も標準で搭載した。さらに、価格についても従来の19,800円から、14,800円へと大幅に値下げしている。

問い合わせ (株)高電社 TEL 06-628-8880

URL <http://www.meshnet.or.jp/KODENSYA/>

Product

ワープロ感覚で ホームページを編集 「WebAssistant」

東芝は、ワープロ感覚でホームページを作成できる「Web Assistant」2種類を発売した。「Web Assistant EasyAuthor」はWindows95、WindowsNT3.51用で、価格は16,800円。「Web Assistant/Publisher」はページの編集だけでなくサーバーへの登録やサーバー上のコンテンツ管理を行う。Solaris 2.4 / 2.5とWindowsNT 3.51用で36,800円。

問い合わせ (株)東芝 コンピュータ・通信ネットワーク事業統轄部 TEL 03-3457-2563

URL <http://eiplaza.toshiba.co.jp/>



WYSIWYG対応のWebAssistant

Seminar

イントラネット・ストラテジー・ディ マイクロソフトがインターネットとイントラネット戦略を明確化

6月13日、マイクロソフト社は「イントラネット・ストラテジー・ディ (米国サンノゼ市)」という戦略セミナーを開き、今後のほとんどすべてのマイクロソフト社の製品をインターネット/イントラネットに対応するという戦略を改めて明確にし、デモンストレーションによって、より具体的な製品の姿を明らかにした。

CEOのBill・Gates氏の基調講演に続き、アプリケーションの戦略についてPete Higgins氏が、そしてプラットフォームの戦略についてPaul Maritz氏が述べた。これまで「ナッシュビル」という開発コードネームで呼ばれていた「インターネットエクスプローラー4.0」によって、OSのインターフェイス自体がHTMLを基本としたものになる。つまり、ネットワーク上、ハード

ディスク上にかかわらず、同じ操作によってファイルにアクセスすることができるようになる。また、デスクトップ自体をHTMLで記述できるようになる「アクティブデスクトップ」のデモンストレーションもされた。

「オフィス」の次世代バージョンである「オフィス97」のネットワーク機能もデモンストレーションされた。エクセルは複数の利用者が同一のシートを編集できたり、ワードで作成された文書の保存先にWWWサーバーを指定し、保存形式にHTML形式が選択できるようになる。また、「オフィス97」の各アプリケーションを連携させるものとして、「アウト・ルック」も用意される。HTMLのページ間のリンクの編集については、「フロントページ」というアプリケ

ーションによって簡単にできるようになる。つまり、マイクロソフトの技術のすべてがHTML (WWW) という環境をベースに統合される。

プラットフォーム環境としては、NTサーバー群 (バックオフィス) に加え、既存の基幹業務として利用されているメインフレームなどとの間でトランザクション管理をする「パイパー」と呼ばれるシステムと、オンラインサービスを提供するサイト向けの「ノルマンディー」というシステムが発表された。このほか、ディレクトリーサービス、セキュリティ機能のための枠組みや、「ジャカルタ」と呼ばれていたJavaの開発環境もデモンストレーションされた。

日本市場へ乗り入れる 海外のサーチエンジンサービス

Excite, Inc. 上席副社長 ジョー・クラウス氏インタビュー

Yahoo!, Lycos, Infoseek, Alta Vista, Excite などのサーチエンジンサービスは各社とも最新技術の開発とユーザーの拡大にしのぎを削っている。その折り、Excite, Inc. のジョー・クラウス氏が日本でのビジネス展開のために来日した。スタンフォード大学の学生によるベンチャービジネスから急成長を遂げた Excite について、クラウス氏にインタビューした。

(インタビュー / 編集部・小宮 徹)



はEWS (Excite for Web Servers) という製品 (無料でダウンロード可能) として、多くの企業のイントラネットでデータベースの検索に活用されています。



編集部: 学生が集まってベンチャー企業を作るというのはいかにもアメリカ的ですね。クラウス氏: スタンフォード大学の卒業生が6人で始めました。Yahoo!の2人は大学院生でしたが、われわれは学部生でした。みんなで親から1万5000ドルを借り、ガレージで1年半の間プログラムを書いていた。95年の1月にはNetscapeやSUN、Intuit、AOLなどに出資してきたベンチャーキャピタルのKleiner Perkinsから300万ドルの投資を受けました。サービスを始めたのはその年の10月です。今年2月には、AOLなどから合わせて1400万ドルの資金を獲得しています。



編集部: 最後に、競争の激しくなってきたサーチエンジンビジネスからの収益についてお聞かせください。

クラウス氏: 今のところまとまった利益を上げているエンジンはどこにもないでしょう。でも、コミュニケーションビジネスの歴史を見ると、たとえばパシフィックベルはイエローページで年間10億ドルの収益を上げていますし、TVガイドは最も成功した出版物となっています。これらの企業が行ってきたことは、マーケットシェアと知名度の拡大なのです。そのためには、今資金を投下すること、投資をすることが大事なのです。

編集部: Yahoo!が日本法人を設立し、InfoseekとLycosもその準備に入っているとのことですが、Excite, Inc.のビジネス戦略では日本がどう位置づけられているのでしょうか。

クラウス氏: すでに6~7か国を回ってきましたが、日本はパソコンの普及率と最新技術への需要の高さという点で大きな魅力があります。市場としては未成熟な分野ですが、まず良いパートナーを見つけ、早期にビジネスを立ち上げることがインターネットでは重要だと考えます。



編集部: インターネット市場の可能性をどのように分析していますか。

クラウス氏: 今は技術としてのインターネットから消費されるものとしてのインターネットへの転換点だと思います。アメリカではテレビの人気番組のある木曜日には実際にネット上のトラフィックが減ります。これなどは、インターネットがテレビと消費者の獲得競争をしていることの表れです。それと同時に、各国で規制緩和が進み、国際的なビジネスチャンスも拡大しています。



編集部: 日本でのパートナーの条件として何を求めていますか。また、ビジネス立ち上げの予定はいつでしょう。

クラウス氏: パートナーの技術力、情報量、ネットワーク資源などから総合的に検討しています。スケジュールはまだ具体的には

申し上げられませんが、今年中には必ず進出するつもりです。



編集部: 日本のサーチエンジンも研究なさったと思いますが、どのような感想を持ちましたか。

クラウス氏: ええ、(インターネットマガジン3月号の付録『WWWサーチエンジンカタログ』を靴から取り出して)この中からいくつか試してみました。アメリカのもの違って驚いた点は、いくつかのサイトで登録の許可を取らなければならなかったことです。Exciteは包括的なサービスを目指していますから、このようなモデルは採用するつもりはありません。



編集部: 各社が次々に日本に進出してくる中で、Exciteの「セールスポイント」というと何になるでしょうか。

クラウス氏: Exciteは1つのユーザーグループではなく、多様なユーザーグループに対応したサービスを提供しているという点です。たとえば、幅広い情報を望んでいる一般ユーザーには情報検索のための「NetSearch」、地理的に限定された情報を求めるユーザーには「city.net」、カスタマイズされた情報がほしいという個人には「personal excite」などを用意しています。技術開発に関しても、サーチエンジンの技術を自分で保有しているために柔軟な対応ができるという点も利点ですね。この技術

インターネットエキスポ'96 通信

No.8

開催期間：1996年1月1日～1996年12月31日

<http://park.org/>THE
INTERNET 1996
WORLD EXPOSITIONテクノDJによるライブ「東京 MIX-UP DISCO」
5月15日深夜、ストリームワークスで香港から生中継

「東京MIX-UP DISCO」のページ。ソニーのパビリオンの「BIG TOP」で案内していた。各アーティストのプロフィールや香港の街の写真もある。



編集部からストリームワークスで見たライブの様子

エキスポのイベントスケジュールは
ここでチェック!!日本ゾーン URL <http://park.org/Japan/>
イベント広場 URL <http://park.org/Japan/JZone/Low/Leventj.html>慶大湘南藤沢キャンパスで行われた坂本龍一氏の講演を
ストリームワークスを使って中継

インターネットなど先進的な研究環境で知られる慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで5月24日、坂本龍一による講演がストリームワークスで中継された。

「批判的音楽生活」と題されたこの講演は、同大学環境情報学部の藤幡研究室と岩竹研究室が主催したもので、午後4時40分より約2時間半ほど中継された。中継自体は

香港からテクノDJのライブを
インターネットで中継

人気DJによるライブの様子がストリームワークスで中継されるというイベント「東京MIX-UP DISCO」が5月15日、香港で行われた世界的な音楽見本市「MIDEM ASIA(ミデムアジア)」で開催された。

このイベントは香港のLOST CITYというディスコで行われたライブをストリームワークスで世界中に流すというもの。このイベントは、インターネットワールドエキスポの公認イベントとして、当日はソニーのパビリオンの中からアクセスでき、ライブのタイムスケジュールや出演者のプロフィールもWWWで見ることができた。

石野卓球、ケン・イシイなど、
テクノDJ 総出演の豪華ライブ

さて、このライブには、日本から石野卓球(電気グルーヴ)、ケン・イシイ、田中フ

ミヤ、アメリカからDerrick May、Jeff Mills、韓国から李博士(イ・バクサ)などが出演した。そのうちストリームワークスでは日本のアーティストが中心に紹介されていた。

午後11時半の中継開始と同時に編集部からも接続してみたところ、受信状態はまずまずだった。回線速度は14.4K(音声のみ)、28.8K(音声と映像、音声のみもあり)、56K(音声と映像)から選べるようになっていた。試しに12時ごろ56Kでアクセスすると、ビデオクリップの映像とともにディスコミュージックが聞けた。

また、ライブと同時に各DJにWWWで曲のリクエストができるようになっており、好きなDJの名前と曲名をインターネットで送ると、リアルタイムにランキングが表示されるようになっていて、自分の入れた1票も即座にWWWに反映されていた。このようなイベントは今後もおおいに期待できそうだ。



講演中の坂本氏

「University of Future」という実験の一環として、エキスポの高速回線を使用して行われ、当日はエキスポの中からもアクセスできた。

編集部で試してみたところ、回線がだいぶ混み合っていたものの、28.8Kで接続でき、音声と映像が受信できた。すでに技術的には問題ないようだ。今後もこのような企画に期待したい。

128KTTH
モニターインタビュー

第1回：キネマ旬報社

URL <http://tky030.tth.expo96.ad.jp/>

エキスポ日本ゾーンの中の「128 KTTHプロジェクト」(<http://park.org/Japan/128KTTH/>)では、エキスポの実験として家庭や会社に専用線を引いたモニターたちの活動状況を紹介している。このコーナーではそのモニターの活動状況をレポートしていこうと思う。そこで、今回は「キネマ旬報ホームページ」をとりあげてみた。「キネマ旬報」といえば、大正8年に創刊され今年で77年目を迎える長寿雑誌。インターネットでどんなコンテンツを提供してくれるのだろうか。そのあたりの話をホームページの制作担当であるキネマ旬報社の有澤さんと鮎川さんにうかがってみた。

Q エキスポの中にページを上げるまでの経過を教えてくださいませんか？

A 有澤：最初に、エキスポの事務局からAptivaのマシンとDSU、ルーターが届いたのが、昨年の12月29日でした。専用線はつながっていたようですが、よくわからなかったので、しばらくそのままにしておいたんです。

で、接続しようと思って知り合いに見てもらったところ、ルーターが繋がっていないとのこと。社内を探してみると、年末の荷物の中にまぎれてました(笑)。なんとか接続して、エキスポのWWWも見えたんです。

これで安心だと思ったんですが、NTTから「この回線から警報が出る」という電話がかかってきて、そのあと回線もつながらなくなってしまいました。NTTの方に点検してもらい、エキスポから新しくルーターを送ってもらって、やっとインターネットに接続することができました。結局、接続しようと思ってから実際につなぐまで、1か月近くかかってしまいました。

インターネットのことはほとんど知らなかったで、

インターネットマガジンのHTML作成法の記事を見ながらホームページをちょこちょこ作っていったんです。エディターで1行ずつ指定するのは大変でしたが、1週間ぐらいでなんとかホームページらしきものが作れました。

Q 現在はどのように運営されているのですか？

A 有澤：ホームページには、雑誌「キネマ旬報」の最新刊やバックナンバーの表紙写真と目次一覧や刊行書籍のお知らせなどを載せています。「キネマ旬報」は毎月5日と20日の月2回の発行なので、それに合わせてホームページを更新しています。

Q 今後はどんなことを計画されているのですか？

A 鮎川：キネマ旬報は今年で創刊77年目を迎えるので、創刊時から現在までのバックナンバー一覧をWWWに載せたいですね。あと、映画のタイトル名や監督、俳優の名前のデータベースを作りたいと考えています。資料はたくさんあるのですが、デジタル化されていないので、データベースを



キネマ旬報のページ

ホームページを作っている
有澤さん

作るとなると、テキストデータの入力から始めなければなりません。あと、外国俳優の名前なんかは、時代や著者によって表記がまちまちなので、データベースを作るにはそれらの統一もしなければなりません。

有澤：今後は英語でも読めるようにしたいと思っています。また、ホームページを見てくれた方の感想を直接聞いてみたいですね。

エキスポ・PAP情報

インターネットで資生堂のフレグランス、ピパーチエの香りを楽しめるデバイスが登場。ラフォーレ原宿、銀座ソニービル4F、銀座グラフィックギャラリーの各PAPで体験できる。7月2日まで。



エキスポがNetworld+Interop '96 Tokyoに出展 HTMLがマスターできる「ホームページスクール」など、 楽しめる企画がいっぱい！

時期：7月24日(水)～26日(金) 場所：日本コンベンションセンター(幕張メッセ)

IWE'96が年に一度のネットワークの大展示会、Networld+Interop'96 Tokyoに公式イベントとして参加。エキスポのブースも出展されるので、ぜひ行ってみよう。

ホームページスクール

HTMLの書き方やホームページの作り方がマスターできる公開講座

ハイエンドテクノロジーコーナー

エキスポの各パビリオンで使用されているVOD、VRMLなど、ハイエンドな技術が体験できるコーナー

IWE'96 Introduction コーナー

エキスポのネットワーク環境が分かるコーナー

デモンストレーションステージ

ステージ上でエキスポのコンテンツを紹介するコーナー
クリエイティブラボ

最先端の技術、商品のデモを行うコーナー



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp